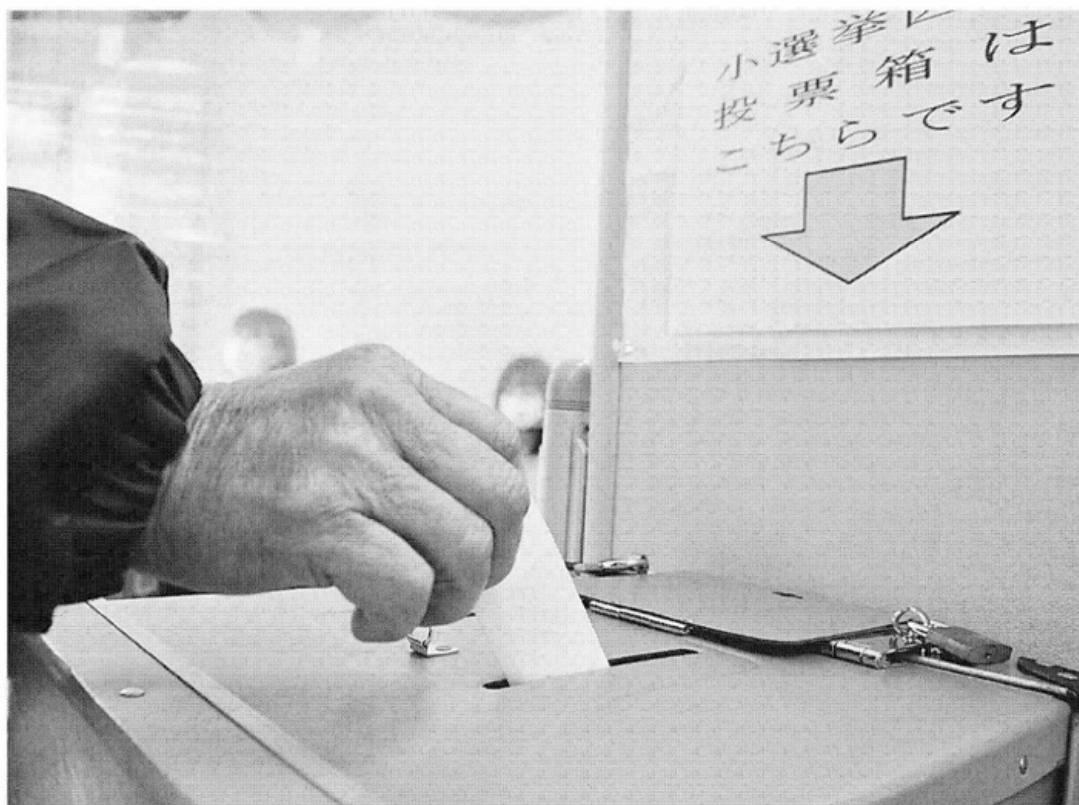




年 組 名前

道新 ワークシート



小樽市役所に設けられた投票所。有権者はそれぞれの思いを託した一票を投じた

有権者思い込め一票

経済対策を一番に／感染拡大時迅速対応を

衆院選の投開票が行われた31日、小樽市内の投票所には有権者が続々と訪れ、それぞれの思いを込めて一票を投じていた。

有権者の関心が高かったのは新型コロナウイルスへの対応だ。会社員 A さん(49)は「コロナで小樽も疲弊している。経済対策を一番に考えて投票した」という。

自営業 B さん(57)は、コロナの影響で失業や廃業で経済的に困窮した人が多くいたことを踏まえ「感染拡大時に困っている人を迅速に支援してくれそうな政党を選んだ」と力を込めた。

初めて衆院選で投票した小樽商大3年の C さん(21)は「感染が拡大していたときはオンライン授業が増え、サークルの仲間たちとも会えなかった」と振り返る。現在、感染は落ち着いているが「再拡大してまた学校に行けなくなることならないよう、対策をしっかりしてほしい」と話していた。

一方、2児を育てる主婦(32)は「3人目の子どもがほしいが、家計には余裕がない。経済的な心配をせず、子どもを産み育てることができるような社会にしてほしい」と切実な声を上げた。(久慈陽太郎)

2021年11月1日朝刊 小樽後志面 16ページ (記事は再編集しています)

①有権者は、どのような思いを込めて投票をしたのでしょうか。文章を読んで、二つ書きましょう。

()
()

②みなさんが今回投票をした場合、どのような思いを込めますか。自分の身の回りの出来事や文章を参考にして、自分の思いを書きましょう。

()